

令和3年9月15日
東日本高速道路株式会社
関東支社

「第2回 横浜横須賀道路 逗子IC災害復旧に関する検討委員会」の開催結果 及びE16横浜横須賀道路 逗子IC利用再開の見通しについて

7月3日(土)に大雨の影響により、のり面崩落が発生したE16横浜横須賀道路 逗子インターチェンジ(以下「IC」)については、現在復旧工事を実施しています。

今般、9月14日(火)に「第2回 横浜横須賀道路 逗子IC災害復旧に関する検討委員会」を開催しましたので、その結果について、別添のとおりお知らせします。

なお、崩落土砂等の撤去や防護柵の設置等、お客さまが安全にご利用頂ける対策を実施した上で、令和3年9月末を目途に逗子ICを暫定的に利用再開する見込みとなりました。詳細な日時については改めてお知らせします。

1. 日時
令和3年9月14日(火) 10:00~15:40
2. 場所
新横浜プリンスホテル 会議室
3. 議事概要
別添のとおり

(参考)「第2回 横浜横須賀道路 逗子IC災害復旧に関する検討委員会」の開催について

【位置図】



出典：地理院地図（国土地理院）をもとに、東日本高速道路株が加工

横浜横須賀道路 逗子 I C 災害復旧に関する検討委員会

第 2 回 検討委員会 開催結果概要

1. 調査結果と崩落原因の推定について

○地質調査等の結果とのり面崩落の原因について、以下のことを確認した。

- ・地質調査等の結果から、当該箇所には分布している『三浦層群逗子層』の地質は泥岩砂岩の互層で切土面に対して流れ盤構造となっており、古い地すべり面が確認された。これは、現地で確認された平滑面と概ね一致した。
- ・今回の崩落の原因は、著しい連続的な豪雨^{※1}によって地すべり土塊内の地下水位が上昇し、土塊の一部が不安定となって崩落したものと推定されること

※1：今回観測された連続雨量（1日積算雨量）は198.5mmと過去10年間で最も多く、特に数日間の累計雨量を見ると著しく多い状況であった（3日間降水量が既往の最大値に対し1.4倍）。

2. 応急復旧による逗子 I C の暫定運用について

○応急復旧により逗子 I C の暫定運用を行うにあたり以下のことを確認した。

- ・滑落崖直上の市道部に抑止工を施工し、安全を確保すること
- ・車線を運用するために必要な崩落土砂と不安定と思われる土塊を除去すること
- ・車線とのり面の間に防護工を設置して一般車の安全を確保するとともに、動態観測を継続すること

3. 本復旧対策の方針について

○本復旧対策の方針について以下のことを確認した。

- ・市道部の復旧にあたっては安定的な構造とするとともに、地下水位の上昇により不安定化しないよう、排水措置を行うこと
- ・のり面内に水が供給されないようのり面保護構造物を施すとともに、下層に水みちが存在する可能性も考慮して排水措置を行うこと
- ・本復旧の工事期間中においても動態観測を実施しながら慎重に施工すること

以 上

【参考】検討委員会開催状況

